

## 研究室紹介

### 千葉県環境研究センター

## 大気騒音振動研究室

今回紹介するのは千葉縣市原市にある千葉県環境研究センター大気騒音振動研究室です。地方自治体の研究室として歴史が古く、過去の統廃合などを含めて前身の公害研究所時代から数えて43年目を迎えています。

当室の職員数は13名で、センター全体では千葉市稲毛区にある水質地質部門を含めて51名の職員がいます。当室は、大気中のガス、粒子、降水、放射能から工場排ガス、さらには航空機・自動車騒音、低周波音、振動、悪臭まで、幅広い調査研究業務を行っています。

◆現在のトピックスは何と言っても放射能対応です。大震災後の原発事故は当室業務を一変させました。応援要員も加え、室員総動員での24時間連続の放射線監視と交代制による夜間勤務の実施など、対応に追われました。放射能測定は大気降水に加え、蛇口水や浄水場浄水の毎日の測定、さらに海水の測定を行ってきました。

★研究業務では、重点研究として「光化学オキシダントの高濃度汚染と原因物質の一つであるVOC対策に関する研究」、「PM2.5やナノ粒子などの微小粒子に関する研究」、「航空機騒音の評価法に関する研究」を行うなど、県民ニーズを踏まえて、広域的あるいは千葉県特有の課題に取り組んでいます。

▲環境行政と連携した業務として、大気環境調査では、県内各地の各種化学物質、有害物質などの調査、酸性雨、ヒートアイランド調査などを実施しています。また、オキシダント計二次標準器を備え、関東と周辺の1都7県を対象としたオキシダント計校正の拠点となっています。

ばい煙発生施設やダイオキシン類立入検査では、職員自ら煙突に登り、排ガスを採取して測定を行っています。

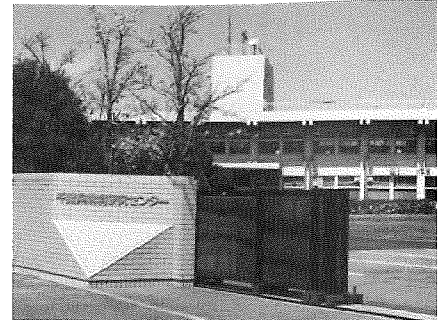
騒音振動調査では、新滑走路の運用開始など変化の著しい羽田空港や成田空港、さらに海上自衛隊下総飛行場に離発着する航空機の騒音調査を行うとともに、県・市町村が実施する測定の技術支援や低周波音の調査などを行っています。

また、東京湾周辺での広域異臭が発生した場合は、成分分析などを行い、原因の究明にあたっています。

●毎日の業務は多岐にわたり、現場観測、作業の大変多い職場です。また、会議や講習への参加、依頼講師など、毎日のように職員が県内各地へ出向き、全員が顔を揃える機会はめったにありません。

当室は伝統的に大気汚染監視の基礎的なモニタリングを重要視しています。東京湾岸の石油化学コンビナート地区から南房総の清浄地域まで県内全域の大気環境の状況を監視するとともに、こうした業務を担保する技術力を維持するようつとめています。

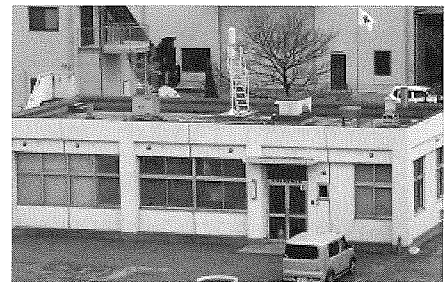
昨今、地方環境研究所を取り巻く状況には大変厳しいものがありますが、職員の士気は高く、それぞれの分野で積極的に調査研究に取り組んでいます。そして職員一丸となって地域の環境を保全するとともに、住民の暮らしを守っていききたいと考えています。



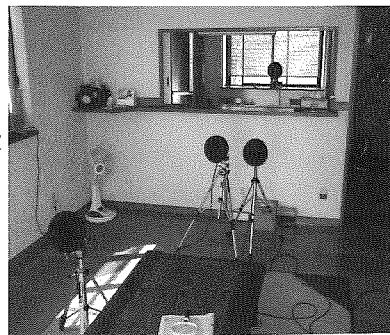
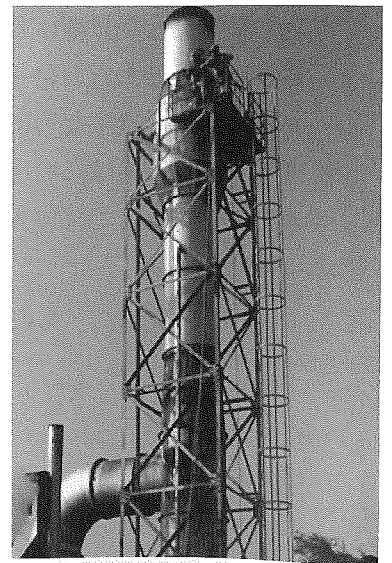
正門より当室(本館)を望む



当所屋上から見た地震後に炎上する製油所



モニタリングポスト(地上7m)



苦情者宅での騒音・低周波音測定 廃棄物焼却炉でのばい煙測定(煙突上部)